

博報堂 DY ホールディングス

2023 年 3 月期 第 3 四半期 連結決算説明会 質疑応答集

2023 年 2 月 9 日（木） 15:30～16:30

説明者：

代表取締役専務執行役員 西岡 正紀

執行役員 禿河 毅

- ・ 種目別売上高の詳細について教えてほしい。特にインターネットメディアについては好調要因を M&A とオーガニックに分けて教えてほしい。

市場全体では、インターネット広告は 12 月累計で前年から 103.8%の伸長だったが、当社グループは 113%程度の伸びとなっている。うち+4%程度はソウルドアウトの買収が影響しており、+9%程度はオーガニック成長によるもの。市場はゆるやかな伸びだったことに対して、当社グループは相対的によい結果を出せたと評価しており、第 4 四半期も同様のトレンドが続くと考えている。

テレビについては、生活者の視聴行動の変化や、当社グループにおいて構成比の大きい自動車業種が半導体不足の影響により回復していないことなどの影響があり前年並みの水準となっている。マーケティング/プロモーションに関しては、通常の SP などに加え、BPO 等の影響もあり増加している。BPO 関連業務はコロナ関連だけでなく、企業の需要や行政のデジタル化などの業務も増えている。

- ・ 中計最終年度である来期の目標は、のれん償却前営業利益で 650 億円以上とのことだが、昨年の方針時と比較してどれほどの変化やポテンシャルがあるか。

まず、今年度の業績予想は変更していない。

そのうえでの来期の話だが、収益面では、ウクライナ問題、半導体不足の影響、インターネット種目の成長の鈍化や既存メディアの伸び悩みなどがある一方、行動制限緩和による回復もある。コロナ対応以外の BPO 関連業務の増加などもあり、事業ポートフォリオは変化している。一部中計見直し時と事情が変わっている面もあるが、全体で見ると今のところ計画通り進捗していると考えている。

費用面は概ね計画通り進んでいる。結果として、営業利益もインラインで進捗していると考えており、来期の計画は、経済や広告市場の動向も見ながら検討していく。

- ・ 3月は広告出稿が弱いというお話も聞いているが、今年度末から来年度に向けて、現場では市場の動向をどのように見ているか。また、今回の業績予想にはどのように反映されているか。

3月は前年のBPO関連業務の反動はあり、前年比でその影響は避けられないが、その他の業務においては特段出稿が弱いという情報は入っていない。

ウクライナ問題などは来期も影響が続くと思うが、円安の是正や経済活動の再開が市場に好影響をもたらすことを期待している。営業現場においては、4月以降の市況を丁寧に見て、来期の作戦を考えている。

- ・ いわゆる五輪関連の問題はBPO事業などに影響があるか。

現時点で直接申し上げられることはないが、BPOを含むマーケティング実践領域の強化は、官公庁だけでなく、もともと民間企業におけるコミュニケーションからエグゼクティブへの変化に対応する意味合いがあり、こうした需要を取り込んで成長につなげていきたいと考えている。

- ・ 今後の賃上げや人件費に関しての考え方を教えてほしい。

博報堂などグループ内の主要な会社においては、一律ベースアップをするような報酬設計にはなっていない。状況によっては従業員のライフステージに合わせて報酬テーブルのあり方検討するが、グループの成長とともに個人の報酬が向上していく形が適切だと考えている。全体の人件費に関しては、賞与も含めてコントロールしていくことが会社としてのスタンスになっている。

以 上